

高濃度 ビタミンC療法

High-Dose Intravenous Vitamin C Therapy IV Drip



高濃度ビタミンC療法

今では一般的に知られる治療法ですが、当院で本格的に高濃度ビタミンC点滴を取り入れたのは約15年以上前になります。

ノーベル化学賞を受賞したライナス・ポーリング博士（1901-1994）は「メガビタミンC研究」を行い1970年に「ビタミンCと感冒」、「癌とビタミンC」のふたつの著作を発表し、その中でビタミンCの作用としてがん・ウイルスに効果があると記しています。その後世界中にビタミンCブームが occurred しました。日本でも1970年後半から1980年前半、私が学生であったころにも「かぜの予防にビタミンC、風邪をひいてもビタミンC」というような風潮が世間にひろがっていた記憶があります。

また2005年にアメリカの国立がん研究所などのグループは『ビタミンCは抗がん剤としての作用を持ちながら、正常細胞は全く傷つけない』という効果を確認したと発表しています。

ビタミンCは強力な抗酸化物質ですので、活性酸素を除去し健康のレベルアップに役立ちます。

その後私が初めてビタミンCについて認識したのは、勤務医をしていた1997年です。医局に回ってきた医療情報の『ビタミンC大量投与がやけどに効果的—杏林大高度救命救急センターで確認』という見出しに大変興味を惹かれたのを覚えています。

その記事は、やけどや頭部外傷、出血性ショックなどの重症患者にビタミンCを大量に投与すると症状の悪化を抑え回復が早くなるなどの効果があることを、杏林大高度救命救急センターの医師が日本救急医学会で発表したというものでした。

またビタミンCが活性酸素を減少させるという作用機序で、脳血管障害や心筋梗塞などの救急疾患に応用できる可能性について述べられていました。そして重症のやけど患者30人に一日96gを投与したところ輸血の量が約半分に減り、死亡率も低くなることがわかったとしています。（当時は活性酸素が今ほど注目されていませんでした。）

ビタミンCにしても脱水症や栄養補給の点滴輸液に、多くても500mgを入れる程度でした。それを96gですからそれまでの約200倍！こんなに大量にビタミンCを点滴しても大丈夫であるということそして治療効果があるということに驚愕したのを覚えています。

それから10年近く経って、大量のビタミンCによる、がんへの効果が注目されることになったのです。

最近では・・・①抗がん剤治療・放射線治療と並行して、高濃度ビタミンCを点滴し、がん細胞を抑制する効果を期待して取り入れる。②抗がん剤治療や放射線治療による副作用の軽減を期待して高濃度ビタミンCを点滴して取り入れるなどの治療法が多く見受けられます。

がん治療としての点滴療法はまだまだ一般的に普及しているとはいえません。すべての症例に効果が期待できるわけではありませんが選択肢の一つとしてご提案させていただいています。

またがん治療以外では免疫力向上やコラーゲン生成、抗ウイルス作用という効果から健康維持・アンチエイジングのために取り入れられる方が多くなりました。他の治療を受けている場合でも、併用した際に支障がないことから安心して取り入れられるところが普及した要因の一つでしょう。

高濃度ビタミンC点滴は

抗がん作用、コラーゲンの生成、抗ウイルス作用、免疫力向上をはじめとして多くの働きがあります。よって、がん及びその他疾患の治療だけでなく誰もが取り入れることのできる予防医療のひとつであると考えます。

当院ではご希望の方に高濃度ビタミンC (25g-100g) を積極的な治療では週1~2回、健康維持なら週1回程度、点滴静注する療法を行っています。

環境や気候変動により適応力のある身体づくりが重要です。テクノロジーの進化や近代化が進むことによって、ヒトの体に必要な構成要素が変わることはありません。栄養バランスの良い食事、適度な運動、排出機能の正常化などは健康な体を維持するために必要な基本的要因です。

これらのことをふまえて高濃度ビタミンC点滴をとりいれることをおすすめします。

0798-57-5527

sugihara.jiyuclinic@gmail.com

